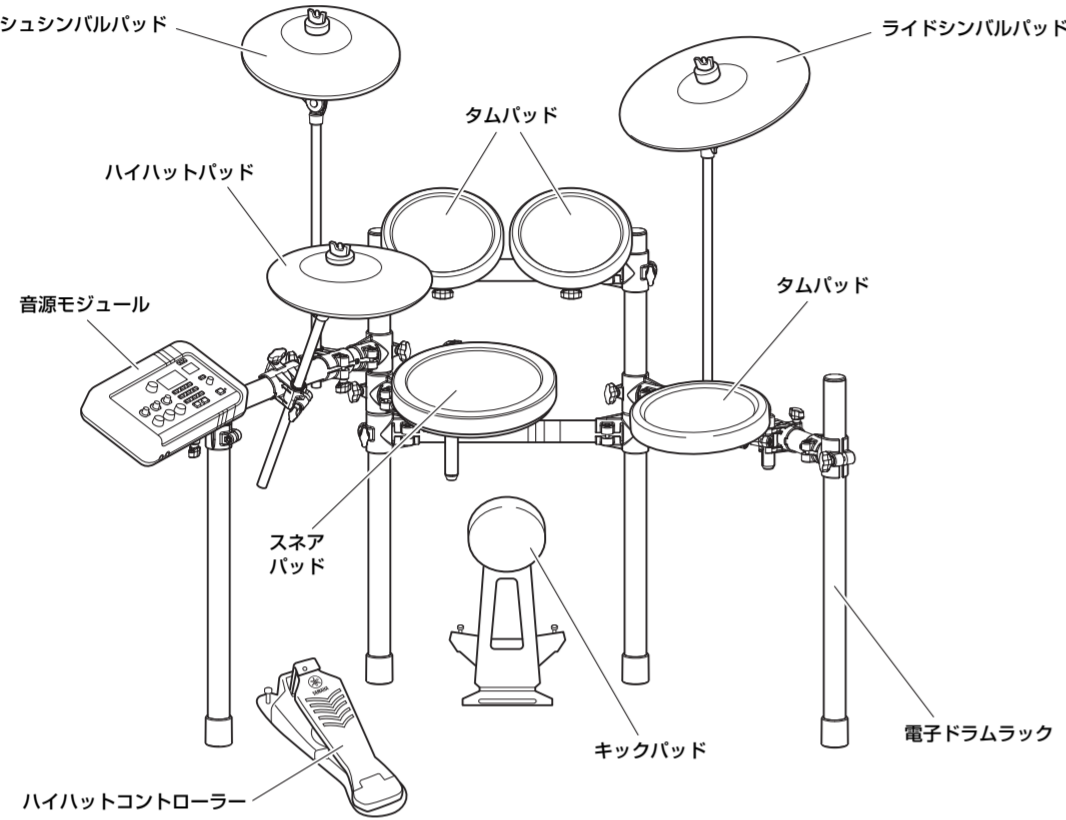


このたびは、ヤマハ電子ドラムセットDTX6K-Xをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
この製品は、ご家庭やスタジオなどで演奏にお使いいただける電子ドラムセットです。
正しく組み立てて、安全にお使いいただくため、本書をよくお読みになってからご使用ください。
また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管していただきますようお願いいたします。
この説明書では、DTX6K-Xの標準的な組み立て方を説明します。
組み立てと配線をした後、音源モジュールのトリガーセットアップを選択するまでを説明します。

標準的な組み立て例



重要

- この説明書では、組み立てられた状態の電子ドラムラックに対してパッドセットと音源モジュールを取り付ける方法を説明しています。あらかじめ電子ドラムラックに同梱されている取扱説明書に従ってラックを組み立てた上で、この説明書をお読みください。
- 同梱されているパッド類と電子ドラムラックの保証については、それぞれの取扱説明書に記載の保証書をご利用ください。

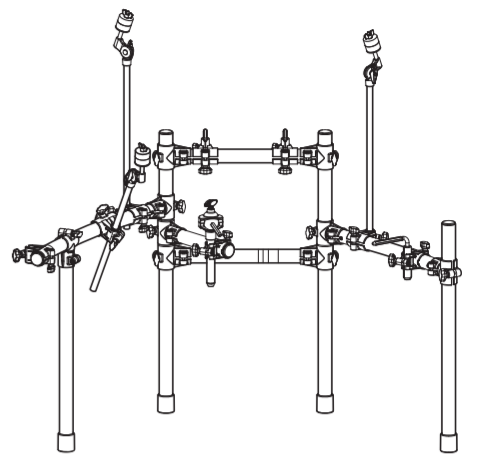
注記

別売のドラムマットがある場合には初めに床に敷いてください。ドラムマットが無い場合は、床に傷がつくのを防ぐためハイハットコントローラーとキックパッドの下に梱包材の段ボールなどを敷いてください。

1 梱包箱の中身を確認します。
梱包箱を開けたら、すべての部品がそろっていることを確認してください。

DTX6K-Xの同梱品

- スネアパッド XP80 (1個)
- ライドシンバルパッド PCY135 (1個)
- ハイハットパッド (1個)
- クラッシュシンバルパッド (1個)
- 電子ドラムラック (1式)
- 電子ドラムラック取扱説明書 (1冊)
- ハイハットコントローラー HH65 (1台)
- PCY135用 回り止め金具 (1個)
- ハイハットパッド/クラッシュシンバルパッド用 回り止め金具 (2個)
- キックパッド KP65 (1台)
- 9chマルチケーブル (1組)
- ケーブルバンド (6本)
- チューニングキー (1個)
- 音源モジュールDTX-PRO (1台)
- モジュールホルダー (1個)
- タムパッド TP70 (3個)
- クランプボルト (XP80用) (1個)
- ウイングボルト (TP70用) (3個)
- DTX6K-X組立説明書 (本書、1部)
- PCY100 PCY135 PCY155取扱説明書 (1冊)
- HH65取扱説明書 (1冊)
- XP70 XP80取扱説明書 (1冊)
- TP70取扱説明書 (1冊)
- KP65取扱説明書 (1冊)
- 電源アダプター (1個)
- DTX-PRO取扱説明書 (1冊)
- DTX-PRO保証書 (1通)
- CubaseAIダウンロードインフォメーションチラシ (1通)
- モジュールホルダー止めネジ (4個)



* 組み立て完成後のイラストです。

安全上のご注意 ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすることで生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

- ※ お読みになった後は、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。
- ※ パッドやラックに付属の組立説明書や取扱説明書も必ずお読みください。

警告	この表示内容を見逃した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。
!	けがをするおそれがありますので、小さいお子様が取り扱いされる際は必ず保護者が付き添ってください。
!	シンバルホルダーやタムホルダーの先端部分はとがっています。けがの原因になりますので、取り扱いにはじゅうぶんに注意してください。
!	キックパッドやフットペダルに取り付けられているすれ防止用スパーは先端部分がとがっています。けがの原因になりますので、取り扱いにはじゅうぶんに注意してください。
!	この製品を設置される際、固定用のナット等はしっかり締め付けてください。また、固定用ナット類をゆるめる際は急激にゆるめないでください。パッドが落下したり、ラック、パイプ、ホルダーの部品の落下、転倒などにより、けがの原因となります。
!	この製品を、不安定な場所(水平でない場所、くらついている台の上など)に設置しないでください。転倒、落下などにより、けがの原因となります。
!	この製品を設置される際、接続ケーブルなどの引き直しにはじゅうぶんに注意してください。足を掛けて転倒するなど、けがの原因となります。
!	この製品を分解したり、改造したりしないでください。けがまたは故障の原因となります。
!	ラックに腰かけたり踏み台にしないでください。転倒したり壊れたりして、けがの原因となります。

※ この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。

※ 本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

※ 製品の仕様および外観は、改良のため予告無く変更することがあります。

記号表記について

この機器や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

- !** 「ご注意ください」という注意喚起を示します。
- !** ~しないでくださいという「禁止」を示します。
- !** 「必ず実行」してくださいという強制を示します。

注意	この表示を見逃して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、財産が損害を受ける危険のおそれがある内容を示しています。
!	クランプを調節する際、指に注意してください。指が挟まれてけがをするおそれがあります。
!	パイプの端面や内面及びネジの先端にご注意ください。尖った部分等で指にけがをするおそれがあります。
!	キックパッドやフットペダルの下に、手や足を入れないでください。挟まれてけがの原因となります。
!	電子ドラムラックには、アコースティックドラムを取り付けしないでください。クランプの破損や、ドラムの落下などで、けがをするおそれがあります。

注記(ご使用上の注意)

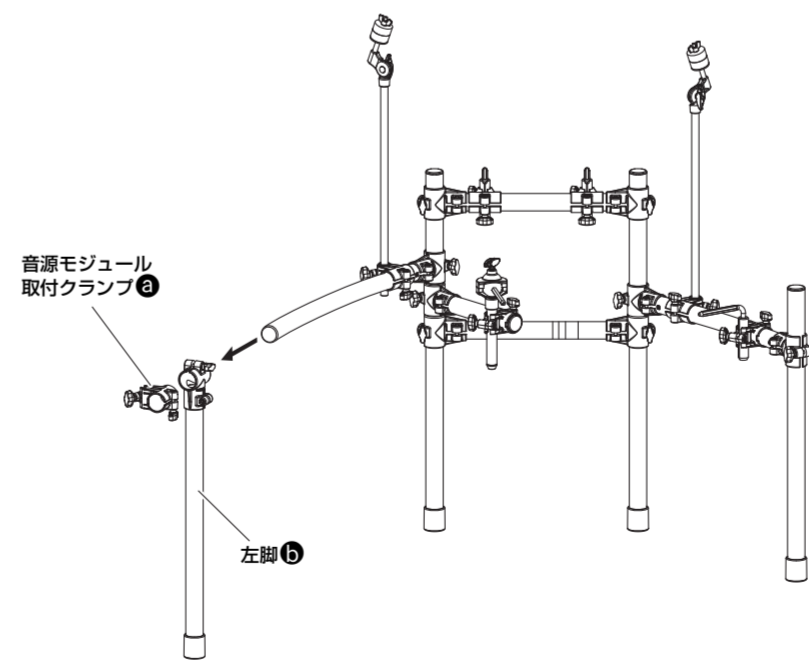
- ケーブルの抜き差しは必ずプラグ部分を持って行ってください。また、ケーブルの線の部分に重いものを乗せたり、とがったものが触れたりしないように注意してください。線の部分に無理な力がかかると断線などのトラブルの原因になります。
- この製品の上に乗ったり、重いものを乗せたりしないでください。故障の原因になります。
- 温度が極端に高い場所(直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、閉めきった車内など)や、湿気の多い場所(風呂場、雨天の屋外など)での使用、保管はしないでください。変形、変色、故障や性能劣化の原因になります。
- 製品を手入れするときは、ベンジンやシンナー、アルコール類は使用しないでください。製品を変色、変形させるおそれがあります。お手入れの際は、やわらかい布で乾拭きするか、水を含ませて固く絞った布を用いて汚れをふき取ってください。汚れがひどいときは、中性洗剤を含ませた布を固く絞って汚れを拭き取り、そのあとで水を含ませて固く絞った布を用いて洗剤を拭き取ってください。

2 電子ドラムラックを組み立てます。
組み立て方については、電子ドラムラック取扱説明書をご覧ください。

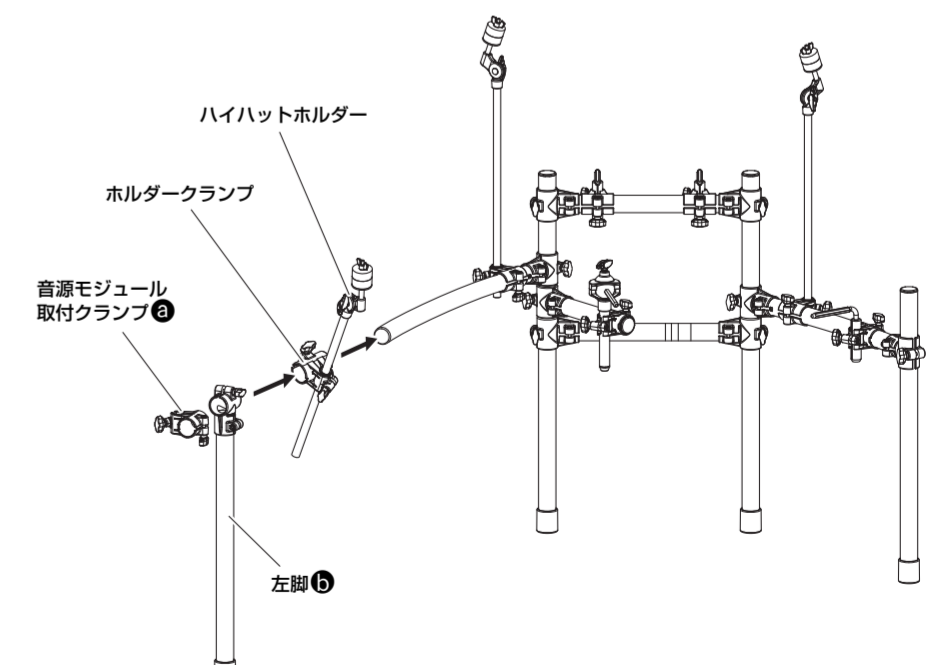
3 電子ドラムラックにハイハットホルダー、パッド類、音源モジュールを取り付けます。

ハイハットホルダーの取り付け

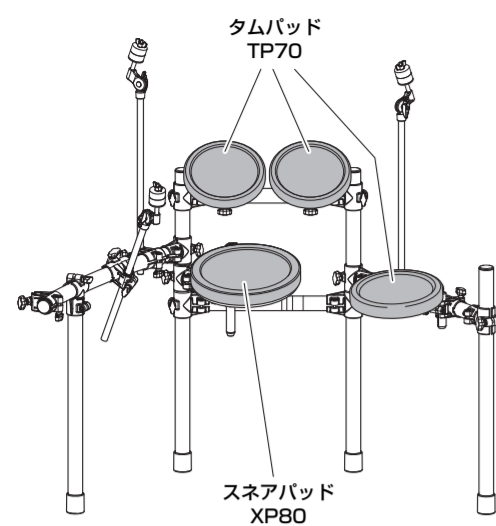
1. ラック左端の音源モジュール取付クランプ(下図④)と左脚(下図⑤)を外します。



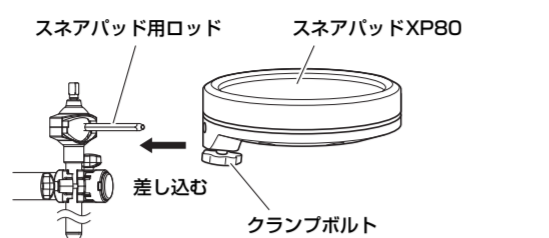
2. ハイハットホルダーのホルダークランプを下図の向きで取り付けたあと、左脚(下図⑤)と音源モジュール取付クランプ(下図④)を再びラックに取り付けます。



スネアパッド/タムパッドの取り付け



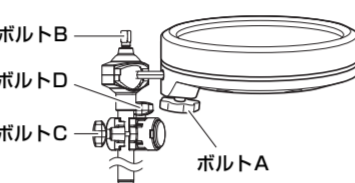
- スネアパッド用ロッドにスネアパッドXP80を差し込み、クランプボルトを締めてスネアパッドを固定します。



【注記】

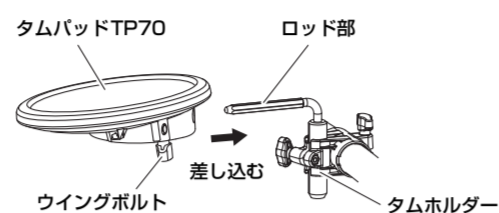
スネアパッド用ロッドとスネアパッドの間に指1本分程度のすき間を空けてください。ロッドとスネアパッドが干渉していると、パッドが破損する原因になります。

- スネアパッドの打面の高さや角度は、下図のボルトA～Dをゆるめることで調整できます。位置が決まったら必ずしっかりとボルトを締めて固定してから次の調整を行ってください。

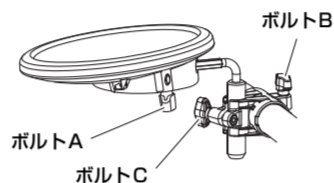


■ タムパッドの取り付け

- スネアパッドと同様、3つのタムパッドそれぞれにウイングボルトを軽く締めておきます。(5～6回転程度)
- ラック上のタムホルダーにタムパッドを取り付けます。タムホルダーのロッド部をタムパッドの取り付け穴に深く差し込み、ボルトを締めてしっかりと固定します。

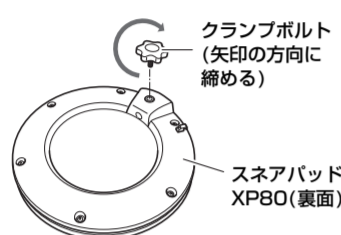


- タムパッドの打面の高さや角度は、下図のボルトA～Cをゆるめることで調整できます。位置が決まったら必ずしっかりとボルトを締めて固定してから次の調整を行ってください。

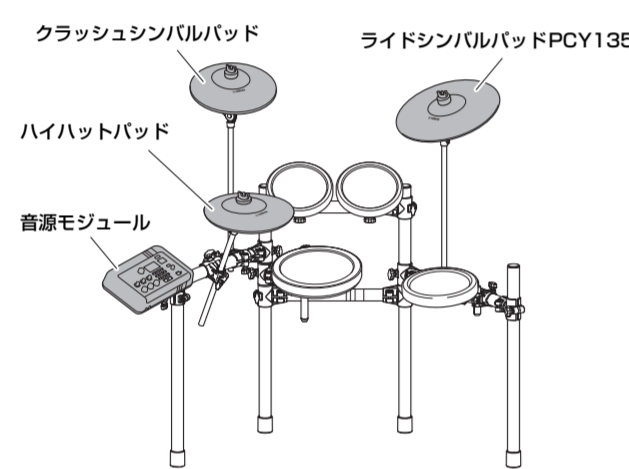


■ スネアパッドの取り付け

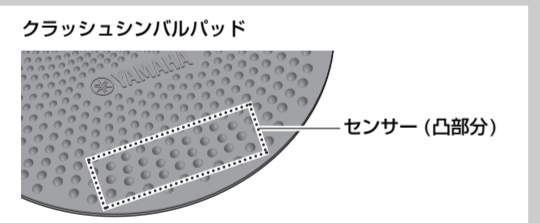
- スネアパッドにクランプボルトを軽く締めておきます。(5～6回転程度)



音源モジュール/ハイハットパッド/シンバルパッドの取り付け

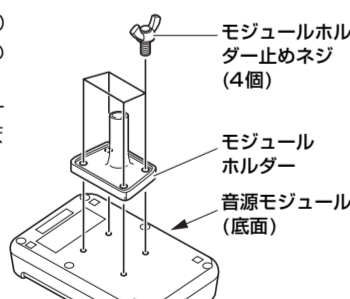


ハイハットパッドとクラッシュシンバルパッドの見分け方
クラッシュシンバルパッドは、裏に「CRASH」というシールが貼ってあります。また、表面の凹デザインが一部凸になっています。ハイハットパッドには、シールや凸部分がありません。

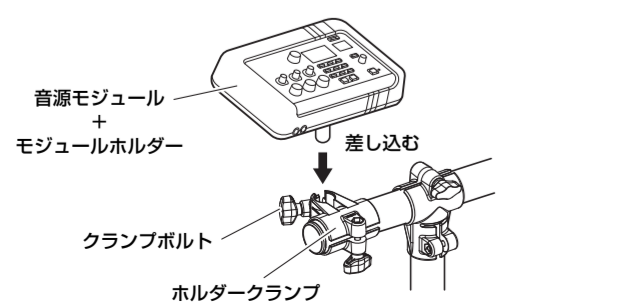


■ 音源モジュールの取り付け

- 音源モジュールに付属のモジュールホルダー止めネジを使って、音源モジュール底面にモジュールホルダーを取り付けます。

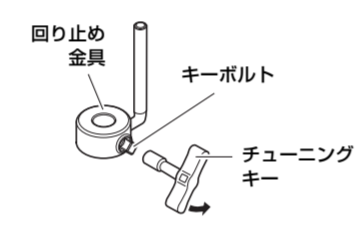


- モジュールホルダーをホルダークランプに差し込み、クランプボルトを締めて固定します。

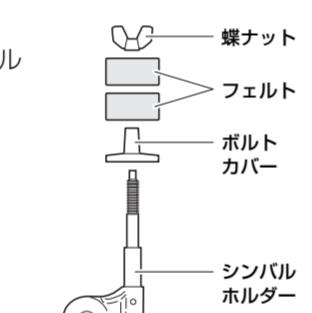


■ ハイハットパッド/シンバルパッドの取り付け

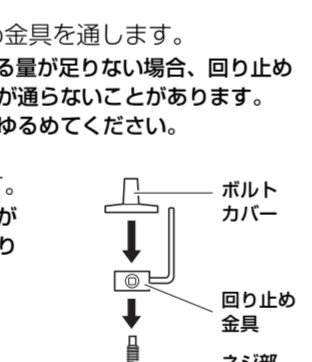
- 回り止め金具のキーボルトを、チューニングキーを使ってゆるめます。



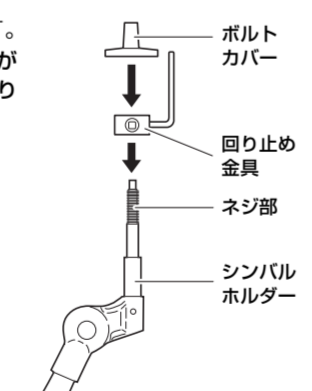
- シンバルホルダーから、蝶ナット、フェルト(2個)、ボルトカバーを外します。



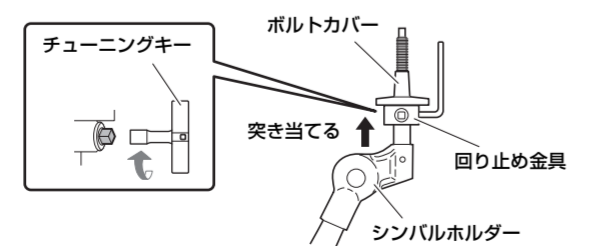
- シンバルホルダーに回り止め金具を通します。
※ 手順1でキーボルトをゆるめる量が足りない場合、回り止め金具の穴にシンバルホルダーが通らないことがあります。キーボルトが外れない程度にゆるめてください。



- ボルトカバーを取り付けます。
※ ボルトカバーは、回転させながらネジ部にねじ込み、しっかりと固定させます。



- 下図のように、回り止め金具をボルトカバー下面に当てた状態にし、チューニングキーを使ってキーボルトを締め、固定します。

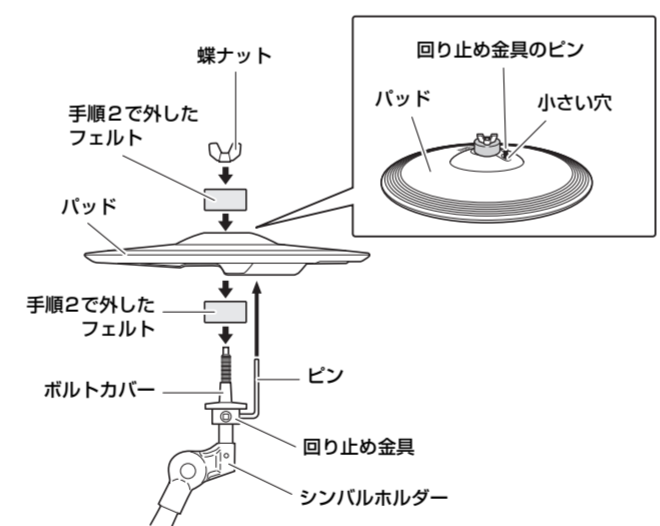


- シンバルホルダーに、手順2でシンバルホルダーから外したフェルトを1つ通します。

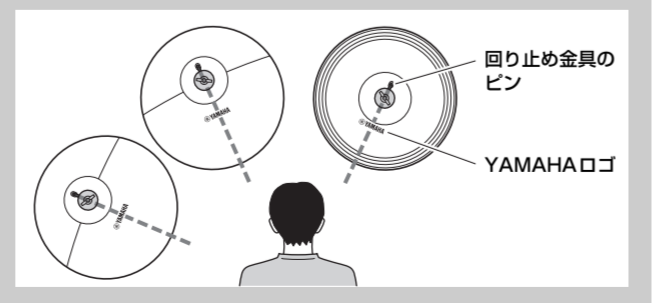
- パッドを取り付けます。シンバルホルダーの先端をパッド中央の穴に通し、回り止め金具のピンをもうひとつの小さい穴に通します。
※ 回り止め金具のピンがシンバルパッドの小さい穴に十分に届いていない状態で演奏すると、ピンが穴から外れる可能性があります。回り止め金具は、必ず手順5で指定している位置に固定してください。

- 手順2でシンバルホルダーから外したもう1つのフェルトを取り付けます。

- 蝶ナットを締めてパッドとシンバルホルダーを固定します。



YAMAHAロゴに近い位置を叩くと、快適な演奏感が得られます。自然にYAMAHAロゴ付近を叩けるよう、シンバルパッド/ハイハットパッドの位置を調整してください。シンバルパッド/ハイハットパッドのYAMAHAロゴが、演奏者の位置から見て正面に見えるのが正しいセッティング位置です。下図を目安に、手順5で取り付けた回り止め金具の向きを調整することで、シンバルパッド/ハイハットパッドの向きが適切になります。

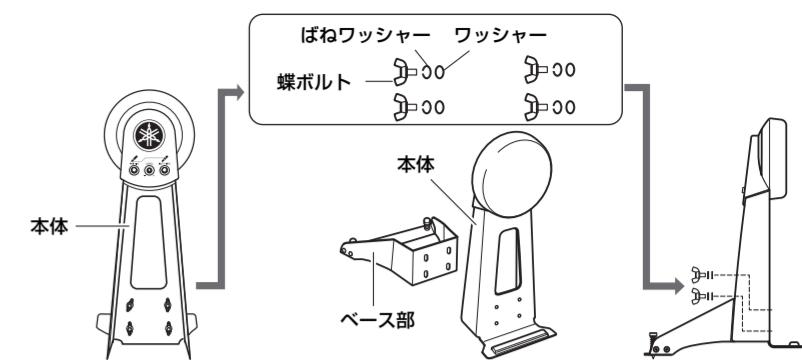


キックパッドの組み立て

- ドラムマット(別売)などが無い場合は、床に傷がつくのを防ぐため段ボールなどを敷きます。
- キックパッドの本体から蝶ボルト、ばねワッシャー、ワッシャーをいったん外し、4組それぞれ外したままの順番で近くに置きます。
- 右図のようにベース部に本体を組み付け、手順2で外した蝶ボルト、ばねワッシャー、ワッシャーをベース部側から取り付けて固定します。

NOTE

フットペダル(別売)の取り付けについては、KP65取扱説明書の「セッティングのしかた」をご覧ください。



- 本紙おもて面の「標準的な組み立て例」を参考に、ハイハットコントローラーとキックパッドを配置します。

【注記】

別売のドラムマットがある場合には初めに床に敷いてください。ドラムマットが無い場合は、床に傷がつくのを防ぐためハイハットコントローラーとキックパッドの下に梱包材の段ボールなどを敷いてください。

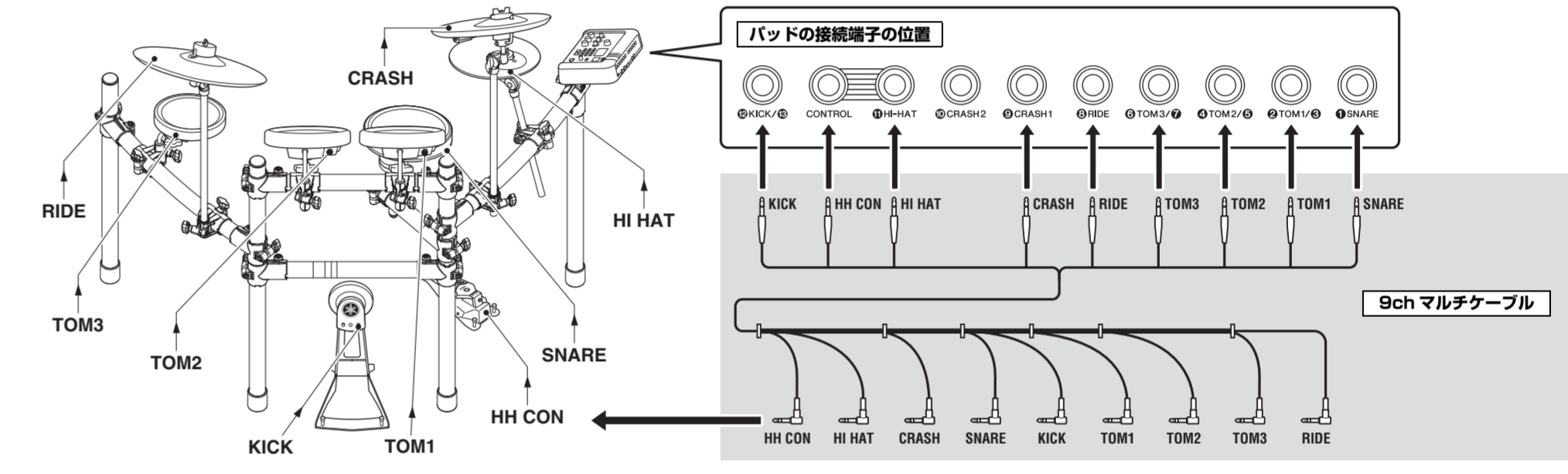
- パッドと音源モジュールを接続します。

パッドの出力を音源モジュールのパッド入力に接続し、配線します。

- 音源モジュールのリアパネルのトリガー入力端子に、9chマルチケーブルのストレートプラグを差し込みます。
・標準セットアップでは、各プラグのシールに印字されているパッド名の記号に合わせて9chマルチケーブルを接続します。
- 9chマルチケーブルのL字プラグを各パッドの端子に差し込みます。
- スネアパッド、タムパッド、シンバルパッド、ハイハットパッドは、ケーブルが抜け落ちないようにコードフックに巻きつけて固定します。

【注記】

コードフックに巻きつける際、ケーブルを極端に折り曲げないでください。断線の原因となります。



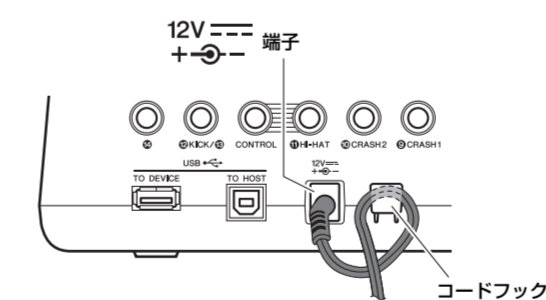
- 音源モジュールに電源アダプターを接続します。

- 電源アダプターのDCプラグを $\pm 12V$ 端子に接続します。電源コードが抜け落ちないようにコードフックに巻きつけて固定します。

【注意】

コードフックに巻きつける際、コードを極端に折り曲げないでください。断線の原因となります。

【音源モジュールのリアパネル】

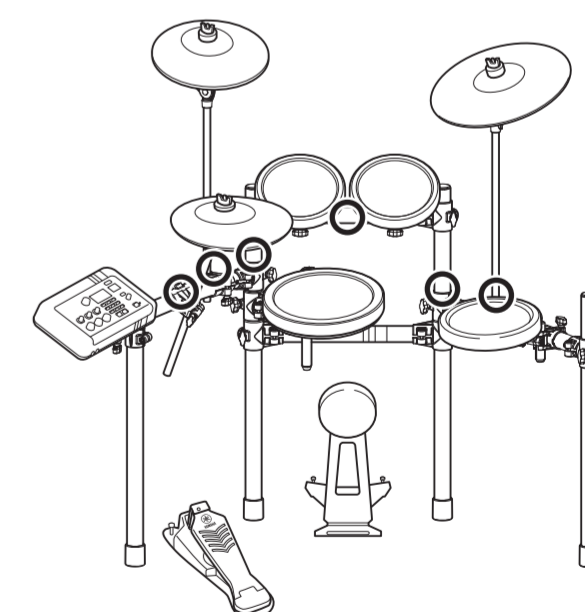


- ケーブルバンドを使い、右図の○位置を参考にケーブルをラックに沿わせて固定します。

【注記】

音源よりも離れたほうからケーブルバンドで止めると、綺麗にセッティングできます。

- 電源アダプターのもう一端(電源プラグ)を家庭用(AC100V)コンセントに接続します。



- 音源モジュールの設定をします。

音源モジュールのDTX-PROのトリガーセットアップで「DTX6K-X」を選択してください(トリガーセットアップの選択手順については、DTX-PRO取扱説明書の「初期設定(トリガーセットアップウィザード)」をご覧ください)。

【注記】

トリガーセットアップの選択はとても大切です。誤ったトリガーセットアップを選択すると、快適な演奏感が得られません。最高の演奏のためにお使いのドラムキットに対応するトリガーセットアップを使いましょう。

● **キックパッドの出力(LEVEL)調整:**
キックパッドKP65のレベル調節つまみで、トリガー出力をお好みの大きさに調節してください。詳しくはKP65取扱説明書の「出力(LEVEL)調整」をご覧ください。